

環境経営レポート

対象期間：2023 年 7 月～2024 年 6 月



発行日：2024 年 10 月 25 日

改定日：2024 年 10 月 25 日

山建プラント株式会社

事業概要

1. 事業所名

山建プラント株式会社

2. 代表者氏名

代表取締役 小村 洋司

3. 事業所所在地

本社 島根県出雲市多伎町久村 213-8、10、11、13、14、15、16、17、20、23
玉湯処分場 島根県松江市玉湯町林 1743-1、-3

4. 環境管理の責任者及び連絡先

役職氏名 取締役 松浦 敦
連絡先 TEL : 0853-86-3861 FAX : 0853-86-3862
mail a-matsuura@sankenp.co.jp

5. 認証登録範囲

全組織・全活動を対象とする

6. 事業活動の概要と事業範囲

産業廃棄物処理業（破碎・再生・溶融・分級）

産業廃棄物収集運搬業

アスファルト合材製造および販売業

・事業許可番号

処分業（本社）

許可自治体：島根県

許可番号：03220057099

許可年月日：令和3年12月12日

有効年月日：令和10年12月11日

事業の範囲：破碎（廃プラスチック類、紙くず、繊維くず、ゴムくず、
ガラスくず等、鋳さい、がれき類）
再生（鋳さい（鋳物廃砂に限る））
溶融（廃プラスチック類）

処分業（玉湯処分場）

許可自治体：松江市
許可番号：12920057099
許可年月日：令和3年12月12日
有効年月日：令和10年12月11日
事業の区分：破碎、分級
産業廃棄物の種類：ガラスくず、がれき類

収集運搬業

許可自治体：島根県
許可番号：3200057099
許可年月日：令和3年12月12日
有効年月日：令和10年12月11日
事業の区分：積替え、保管行為を含まない
産業廃棄物の種類：廃プラスチック類、紙くず、木くず、繊維くず、ゴムくず、
金属くず、ガラスくず等、鋳さい、がれき類

7. 会社の沿革

1982年3月 山陰建設工業株式会社プラント部でアスファルト合材製造開始
1997年3月 山建プラント株式会社設立（山陰建設工業株式会社から分社）
1999年1月 産業廃棄物処理業許可取得
2001年12月 産業廃棄物収集運搬業許可取得

8. 事業規模

資本金	1500万円
年商額	5億6800万円（2023年度）
従業員数	18名（役員4名・従業員14名）

設備概要

本社 使用せず	破砕施設 1	
	メーカー	RAPID
	型 式	3545KUB
	処理能力	廃プラスチック類 3600kg/日、 紙くず・繊維くず・ゴムくず・ガラスくず 1600kg/日
本社 使用せず	破砕施設 2	
	メーカー	コマツ
	型 式	BR60
	処理能力	がれき類・ガラスくず・鉋さい 160t/日
玉湯 希に使用	破砕施設 3	
	メーカー	(株)中山鉄工所
	型 式	NC1500RE
	処理能力	がれき類・ガラスくず・鉋さい 1600t/日
玉湯	破砕施設 4	
	メーカー	(株)中山鉄工所
	型 式	NC420GXS
	処理能力	がれき類・ガラスくず・鉋さい 1360t/日
本社 使用せず	破砕施設 5	
	メーカー	(株)中山鉄工所
	型 式	NC420GX
	処理能力	がれき類・ガラスくず・鉋さい 1360t/日
本社 ハイブリッ ド	破砕施設 6	
	メーカー	(株)中山鉄工所
	型 式	NE250J
	処理能力	がれき類・ガラスくず・鉋さい 1360t/日
本社	再生施設	
	メーカー	日工(株)
	型 式	NAP. BD-800MBU
	処理能力	再生アスファルト骨材 224t/日
本社 溶融 使ってない	溶融施設	
	メーカー	フリージア・マクロス(株)
	型 式	NR II 75m/mSG
	処理能力	廃プラスチック類 0.8t/日
	分級施設	
	メーカー	
	型 式	
	処理能力	

入出荷量	入荷量	コンクリートガラ	78,432 t/年 (2022 年度)
			64,156 t/年 (2023 年度)
		廃アスファルト	7,043 t/年 (2022 年度)
			11,982 t/年 (2023 年度)
	出荷量	鉦さい	12,215 t/年 (2022 年度)
			11,148 t/年 (2023 年度)
		アスファルト合材	13,171 t/年 (2022 年度)
			24,034 t/年 (2023 年度)
		砕石	65,560 m ³ /年 (2022 年度)
			67,454 m ³ /年 (2023 年度)
収集運搬		鉦さい	1,740 t/年 (2022 年度)
			286 t/年 (2023 年度)

敷地面積

本社周辺	213- 8	8,912.99 m ²	
	213-10	1,790.87 m ²	
	213-11	1,033.04 m ²	
	213-13	5,005.71 m ²	
	213-14	570 m ²	
	213-15	2,623.16 m ²	
	213-16	1,959.48 m ²	
	213-17	1,054.27 m ²	
	213-23	301 m ²	
	213-20	2,909.25 m ²	(借地)
	(合計)	26,160 m ²	
玉湯処分場	1743-1	4,150 m ²	(借地)
	1743-3	1,714 m ²	(借地)
	(合計)	5,864 m ²	

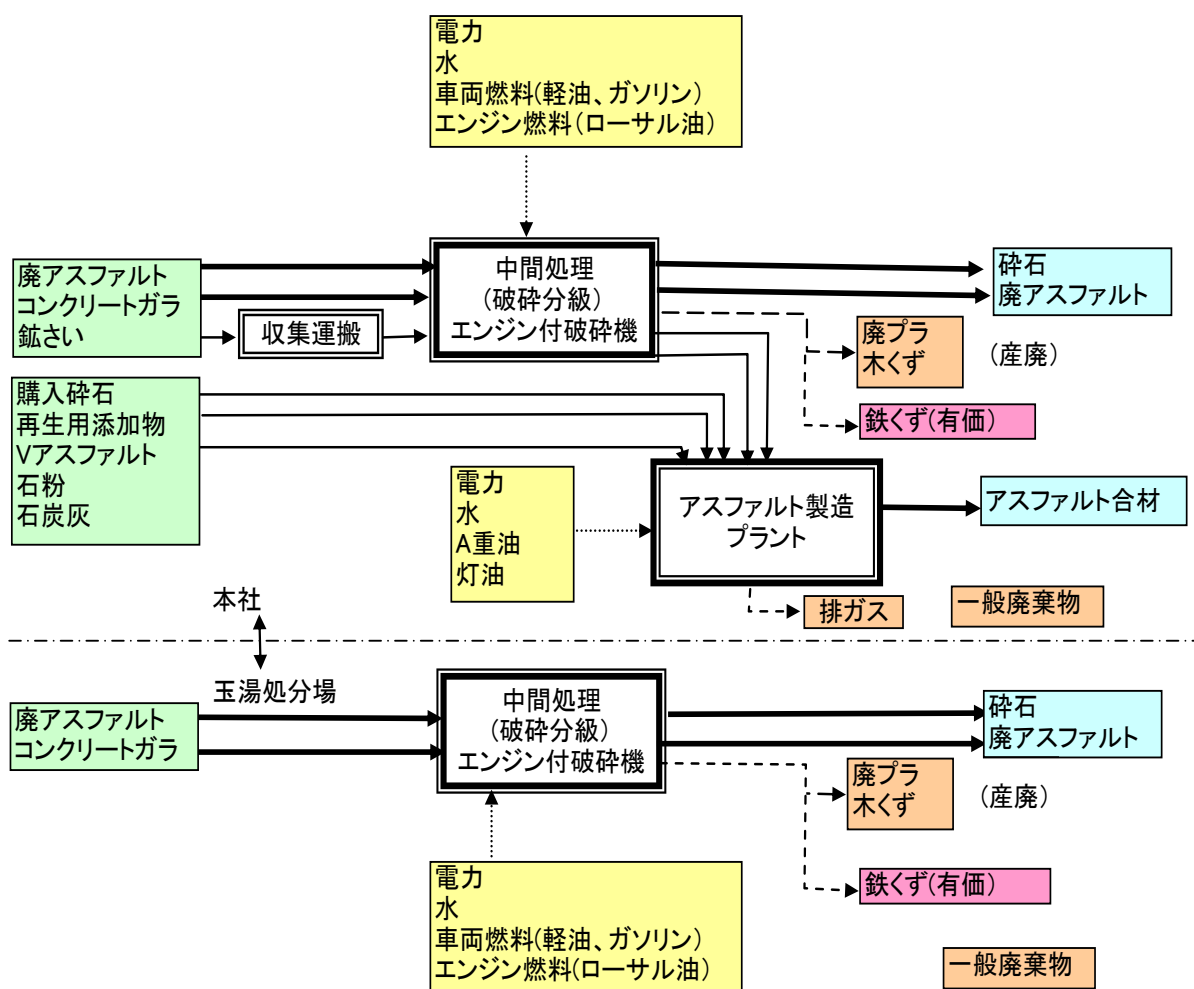
建屋床面積(213-8 敷地内)

事務所	115.13 m ²
倉庫	301.74 m ²
工場	299.37 m ²
実験室	79.5 m ²
合材操作室	60 m ²
プレハブ倉庫	43.8 m ²
(合計)	899.54 m ²

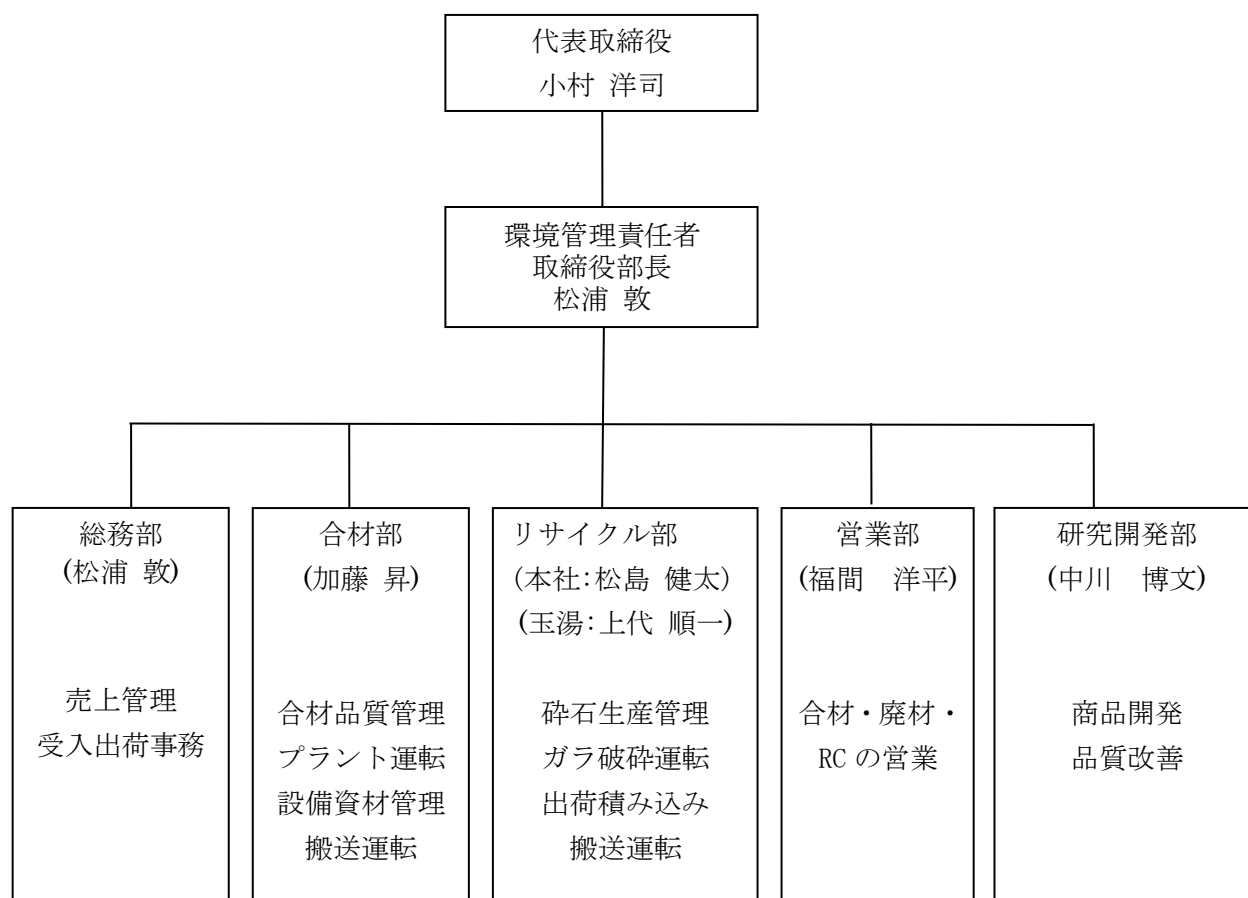
保有重機車両

車両の種類	車両番号	車検有効期間	メーカー
10 t ダンプ	島根 100 は 801	2025. 6. 27	UD
4 t ダンプ	島根 100 さ 8324	2025. 6. 28	日野自動車

処理工程図



9. 組織体制



代表者

- ・環境方針の策定、改正
- ・環境管理責任者の任命
- ・システムの評価と見直し
- ・資源（人・物・金）の投入

環境管理責任者

- ・環境活動レポートの作成公表
- ・環境活動の実績取りまとめ
- ・環境教育推進
- ・環境関連法規の取りまとめと遵守状況チェック
- ・文書記録の管理
- ・指示・伝達・意見聴取
- ・苦情・要望の対応
- ・部門担当の任命

各部門責任者

- ・活動計画の実行推進
- ・環境意識の向上
- ・実施状況自己チェック評価
- ・改善提案の発掘推進
- ・4 S の実施推進

各部門員

- ・活動計画への協力
- ・実施状況チェック
- ・4 S の実施
- ・環境改善の提案

環境方針

基本理念

山建プラント株式会社は、アスファルト合材製造、建設廃材のリサイクル、及び産業廃棄物有効利用の技術開発を主要な事業活動としております。この活動を遂行するにあたり、人と環境にやさしい技術によって、地球の環境を守り快適で住みやすい環境作りに務めて、継続して社会に貢献いたします。

基本方針

私たちは、上記の理念を全うするため、関連する法規制等を遵守し、以下の方針に従って活動します。

1. 車両の化石燃料使用量の削減に努め、二酸化炭素の排出量を削減します。
2. 受託した産業廃棄物の再資源化に取り組み、リサイクル率の向上を図ります。
3. 設備稼働に伴う電力、重油等の使用量を削減する努力を行います。
4. 資源の再利用、節約に努め、自社廃棄物の排出量を削減します。
5. 給排水設備の漏水防止、雨水等の利用促進に努め、水使用量を削減します。
6. 本社及び各事業所の地域社会の環境保全に対し積極的に参加し、共生に努めます。

制定日：2019年2月1日

改定日：2019年10月30日

山建プラント株式会社

代表取締役 小村 洋司

中期環境目標及び本年度の活動結果

全社

項 目	単位	基準年度 2017 年度	環 境 目 標		
			2022 年度	2023 年度	2024 年度
		2017/7～2018/6	2022/7-2023/6	2023/7-2024/6	2024/7-2025/6
二酸化炭素排出量の削減	t-CO2/kwh	1,275.8	△5.0% 1,212.0	△5.1% 1,210.7	△5.2% 1,209.5
電力消費量の削減	kWh	454,306	△5.0% 431,591	△5.1% 431,136	△5.2% 430,682
ガソリン使用量の削減	L	3,783	△5.0% 3,594	△5.1% 3,590	△5.2% 3,586
軽油使用量の削減	L	33,911	△5.0% 32,215	+115.8% 73,174	+115.4% 73,028
灯油使用量の削減	L	391	△5.0% 371	△5.1% 371	△5.2% 371
A 重油使用量の削減	L	204,400	△5.0% 193,976	△5.1% 193,976	△5.2% 193,771
ローサル油使用量の削減	L	112,672	△5.0% 107,038	△41.5% 65,940	△41.6% 65,808
産業廃棄物排出量の削減	t	24	△5.0% 22.8	△5.1% 22.8	△5.2% 22.8
一般廃棄物排出量の削減	kg	480	△5.0% 456.0	△5.1% 455.5	△5.2% 455.0
排水量の削減	m ³	830	△5.0% 788.5	△5.1% 787.7	△5.2% 786.8
化学物質最適管理	PRTR 制度対象化学物質の使用はないので目標数値は設定せず、使用する化学物質の適正管理を確実に行う		化学物質の適正管理を確実に行う		
グリーン購入	数値目標は設定せず可能な限りグリーン購入を推進する		可能な限りグリーン購入を推進する		
受託した産業廃棄物の収集運搬での環境配慮	数値目標は設定せず収集運搬車両の燃費向上のための環境活動を推進		収集運搬車両の燃費向上のための環境活動を推進		
受託した産業廃棄物の処分での環境配慮	数値目標は設定せず適正処理を行い、再資源化を進める		適正処理を行い再資源化を進める		

注：二酸化炭素排出係数は 0.700kg-CO2/kWh（中国電力 2015 年度調整後の排出係数）を使用。

本社

項 目	単位	基準年度	環 境 目 標		
		2017 年度	2022 年度	2023 年度	2024 年度
		2017/7～2018/6	2022/7-2023/6	2023/7-2024/6	2024/7-2025/6
二酸化炭素排出量の削減	t-CO2/kwh	1,058.7	△5.0% 1,005.8	△5.1% 1,004.7	△5.2% 1,003.6
電力消費量の削減	kWh	447,714	△5.0% 425,328	△5.1% 424,881	△5.2% 424,433
ガソリン使用量の削減	L	3,783	△5.0% 3,594	△5.1% 3,590	△5.2% 3,586
軽油使用量の削減	L	31,012	△5.0% 29,461	+37.4% 42,604	+37.1% 42,519
灯油使用量の削減	L	391	△5.0% 371	△5.1% 371	△5.2% 371
A 重油使用量の削減	L	204,400	△5.0% 194,180	△5.1% 193,976	△5.2% 193,771
ローサル油使用量の削減	L	37,006	△5.0% 35,156	△40.7% 21,948	△40.8% 21,904
産業廃棄物排出量の削減	t	12	△5.0% 11.4	△5.1% 11.4	△5.2% 11.4
一般廃棄物排出量の削減	kg	240	△5.0% 228.0	△5.1% 227.8	△5.2% 227.5
排水量の削減	m ³	665	△5.0% 631.8	△5.1% 631.1	△5.2% 630.4
化学物質最適管理	PRTR 制度対象化学物質の使用はないので目標数値は設定せず、使用する化学物質の適正管理を確実に行う		化学物質の適正管理を確実に行う		
グリーン購入	数値目標は設定せず可能な限りグリーン購入を推進する		可能な限りグリーン購入を推進する		
受託した産業廃棄物の収集運搬での環境配慮	数値目標は設定せず収集運搬車両の燃費向上のための環境活動を推進		収集運搬車両の燃費向上のための環境活動を推進		
受託した産業廃棄物の処分での環境配慮	数値目標は設定せず適正処理を行い、再資源化を進める		適正処理を行い再資源化を進める		

注：二酸化炭素排出係数は 0.700kg-CO2/kWh（中国電力 2015 年度調整後の排出係数）を使用。

玉湯

項 目	単位	基準年度	環 境 目 標		
		2017 年度	2022 年度	2023 年度	2024 年度
		2017/7～2018/6	2022/7-2023/6	2023/7-2024/6	2024/7-2025/6
二酸化炭素排出量の削減	t-CO2/kWh	217.2	△5.0% 206.3	△5.1% 206.1	△5.2% 205.9
電力消費量の削減	kWh	6,592	△5.0% 6,262	△5.1% 6,256	△5.2% 6,249
ガソリン使用量の削減	L	0	△5.0% 0	△5.1% 0	△5.2% 0
軽油使用量の削減	L	2,899	△5.0% 2,754	+954.5% 30,570	+952.4% 30,509
灯油使用量の削減	L	0	△5.0% 0	△5.1% 0	△5.2% 0
A 重油使用量の削減	L	0	△5.0% 0	△5.1% 0	△5.2% 0
ローサル油使用量の削減	L	75,666	△5.0% 71,883	△41.9% 43,992	△42.0% 43,904
産業廃棄物排出量の削減	t	12	△5.0% 11.4	△5.1% 11.4	△5.2% 11.4
一般廃棄物排出量の削減	kg	240	△5.0% 228.0	△5.1% 227.8	△5.2% 227.5
排水量の削減	m ³	165	△5.0% 156.8	△5.1% 156.6	△5.2% 156.4
化学物質最適管理	PRTR 制度対象化学物質の使用はないので目標数値は設定せず、使用する化学物質の適正管理を確実に行う		化学物質の適正管理を確実に行う		
グリーン購入	数値目標は設定せず可能な限りグリーン購入を推進する		可能な限りグリーン購入を推進する		
受託した産業廃棄物の収集運搬での環境配慮	数値目標は設定せず収集運搬車両の燃費向上のための環境活動を推進		収集運搬車両の燃費向上のための環境活動を推進		
受託した産業廃棄物の処分での環境配慮	数値目標は設定せず適正処理を行い、再資源化を進める		適正処理を行い再資源化を進める		

注：二酸化炭素排出係数は 0.700kg-CO2/kWh（中国電力 2015 年度調整後の排出係数）を使用。

活動実績

環境目標の当年度の試行期間の目標値から算出した目標に対する実績を下表にまとめた。

全社

目 標 項 目	単位	目標値	実績値	目標－実績	達成 状況	評 価
		2023/7-2024/6	2023/7-2024/6	2023/7-2024/6		
二酸化炭素排出量の削減	t-CO2	1,209.6	1,451.6	△242.2	×	様々な変動要因があり増加したが、取組み状況は良好であり今後効果が表れると期待できる
電力消費量の削減	kWh	430,682	463,736	△33,054	×	出荷量の増加
ガソリン使用量の削減	L	3,586	3,644	△58	×	買替を実施したがもう少し
軽油使用量の削減	L	73,028	101,994	△28,966	×	重機増設のため
灯油使用量の削減	L	371	270	101	○	暖房節約の効果
A 重油使用量の削減	L	193,771	260,000	△66,229	×	出荷量の増加による
ローサル油使用量の削減	L	68,809	53,746	15,063	○	軽油使用機械への変更、空運転の抑制
産業廃棄物排出量の削減	t	23.0	13.0	10.0	○	排出量削減を進めている
一般廃棄物排出量の削減	kg	455	529	△74	×	前年より良化した
排水量の削減	m ³	787	359	428	○	漏水事故なし
目 標 項 目	目 標				実施 状況	評 価
化学物質最適管理	化学物質の適正管理を確実に行う				○	管理簿等で管理
グリーン購入	可能な限りグリーン購入を推進する				○	グリーン商品を確認して購入
受託した産業廃棄物の収集運搬での環境配慮	収集運搬車両の燃費向上のための環境活動を推進				○	アイドリングストップ等、操作に配慮した運転をしている
受託した産業廃棄物の処分での環境配慮	適正処理を行い再資源化を進める				○	分別を励行している

本社

目 標 項 目	単位	目標値	実績値	目標－実績	達成 状況	評 価
		2023/7-2024/6	2023/7-2024/6	2023/7-2024/6		
二酸化炭素排出量の削減	t-CO2	1,005	1,271	△267	×	出荷増による電力、燃料の使用量増が影響している
電力消費量の削減	kWh	424,881	458,503	△33,622	×	出荷量の増加
ガソリン使用量の削減	L	3,590	3,644	△54	×	車両の更新を実施
軽油使用量の削減	L	42,604	66,662	△24,058	×	重機増設のため
灯油使用量の削減	L	371	270	101	○	暖房節約の効果
A 重油使用量の削減	L	193,976	260,000	△66,024	×	出荷量の増加による
ローサル油使用量の削減	L	21,948	22,829	△881	×	重機の買替による
産業廃棄物排出量の削減	t	11.4	2.6	8.8	○	分別・再利用を徹底した
一般廃棄物排出量の削減	kg	228	278	△50	×	減量化の取組が少し足りない
排水量の削減	m ³	631	196	435	○	漏水事故なし
目 標 項 目	目 標				実施 状況	評 価
化学物質最適管理	化学物質の適正管理を確実に行う				○	管理簿等で管理
グリーン購入	可能な限りグリーン購入を推進する				○	グリーン商品を確認して購入
受託した産業廃棄物の収集運搬での環境配慮	収集運搬車両の燃費向上のための環境活動を推進				○	アイドリングストップ等、操作に配慮した運転をしている
受託した産業廃棄物の処分での環境配慮	適正処理を行い再資源化を進める				○	分別を励行している

玉湯

目 標 項 目	単位	目標値	実績値	目標－実績	達成 状況	評 価
		2023/7-2024/6	2023/7-2024/6	2023/7-2024/6		
二酸化炭素排出量の削減	t-CO2	206.2	180.2	26.0	○	仕事量増加による要因が大きいが取組は着実にやっている
電力消費量の削減	kWh	6,256	5,233	1,023	○	電気機器の買替効果
ガソリン使用量の削減	L	0	0	0	－	
軽油使用量の削減	L	33,469	35,332	△1,863	×	重機増設のため
灯油使用量の削減	L	0	0	0	－	
A 重油使用量の削減	L	0	0	0	－	
ローサル油使用量の削減	L	25,577	30,917	△5,340	×	軽油使用機械への買替えて減少した
産業廃棄物排出量の削減	t	11	9	2	○	分別排出は実施済
一般廃棄物排出量の削減	kg	228	251	△23	×	減量化の取組が少し足りない
排水量の削減	m ³	157	163	△6	×	仕事量の増加による
目 標 項 目	目 標				実施 状況	評 価
化学物質最適管理	化学物質の適正管理を確実に行う				○	管理簿等で管理
グリーン購入	可能な限りグリーン購入を推進する				○	グリーン商品を確認して購入
受託した産業廃棄物の収集運搬での環境配慮	収集運搬車両の燃費向上のための環境活動を推進				○	アイドリングストップ等、操作に配慮した運転をしている
受託した産業廃棄物の処分での環境配慮	適正処理を行い再資源化を進める				○	分別を励行している

環境活動計画取組内容・実績及び次年度の取組内容

目標項目	取組内容	取組の評価	取組状況	次年度の環境経営目標 及び環境経営計画
電力使用量の削減	事務所 ・不使用箇所の照明 OFF ・不使用家電の電源 OFF ・事務機器の不要時 OFF ・空調温度設定 夏 28℃ 冬 20℃ 工場 ・起動時の負荷を緩く ・無負荷時は停止 ・適正空気比に調整 ・起動停止を少なくする ・アイドリング時間短縮	不使用時の消灯、電源 OFF については徐々に成果が現れている。 長期休暇時は合材プラントのヒーターを落としている。	○ ○ ○ △ ○ ○ ○ ○ ○	全項目継続実施 全項目継続実施
ガソリン使用量の削減	・速度制限を守る ・急発進・急ブレーキ禁止 ・所定タイヤ圧に調整する ・運搬経路の適正化 ・アイドリング時間短縮	負荷のかかる運転が多少見受けられるが全体的には意識改善されている。	○ ○ ○ ○ ○	全項目継続実施 全項目継続実施
軽油使用量の削減				全項目継続実施
灯油使用量の削減	・一定負荷運転 ・最適空気比に調整 ・最短暖気運転時間 ・連続運転励行 ・アイドリング時間短縮	作業中断でアイドリングを無くすよう作業前の準備確認を行っている。	○ ○ ○ △ △	全項目継続実施 全項目継続実施
A 重油使用量の削減		負荷のかからない運転に配慮できている		全項目継続実施
ローサル油使用量の削減				全項目継続実施
産業廃棄物排出量の削減	・分別排出	分別は徹底できた	○	継続実施
一般廃棄物排出量の削減	・分別排出	もう一段階取組を強める必要あり	○	継続実施
排水量の削減	・放水放置禁止 ・手洗時の節水 ・定期漏水チェック	漏水点検を行っている。	○ ○ ○	全項目継続実施

※取組状況の判定 ○：十分であった △：一部で不十分な場合があった ×：不十分

環境目標・取組・実績に対する評価

「二酸化炭素排出量の削減について」

当社の事業活動は、地域の道路工事の状況により変動が大きく、そのための資材やユーティリティの消費量は大きく変動する。そのため環境目標の達成は困難な場合が多い。当期は特に出荷量が前年より大きく増加し、多くの項目で目標を達成できなかった。

取組について引き続き着実に行う必要がある。

「電力使用量の削減について」

本社の使用量増加の要因はアスファルト合材の出荷量の増加による影響が大きい。日常の取組については事務所、現場ともに概ね良好であり、電力が固定費になる玉湯においては結果に表れている。

「ガソリン使用量の削減について」

仕事量が増えたことで車両の使用量が増加した。ハイブリッド車の導入を進めており、今後一定の効果が表れるものと考えている。

「軽油使用量の削減について」

本社、玉湯ともに目標を超過し達成できなかった。当期から目標を見直したがローサル使用重機から軽油使用重機が増加し機械の構成が変わったことが最も大きな要因である。

「灯油使用量の削減について」

空室時の暖房 OFF の取組を実施しており、今後も継続していく。

「A重油使用量の削減について」

アスファルト合材の出荷量により大きく変動する項目であり、当期は出荷量が増加したため目標達成できなかった。引き続き、過負荷運転の防止や、作業の中断などを無くし連続運転できるよう引き続き取組を行っていく。

「ローサル油使用量の削減について」

軽油使用重機への買替えで使用台数が減少し目標設定も変更したが稼働時間の増加により使用量が増加している。アイドリング時間短縮や低負荷運転に取組み、今後も継続していく。

「産業廃棄物排出量の削減について」

排出量の大半が廃材の中間処理によって発生する木くず、廃プラスチック類であるため、廃材の受入量に比例して増減する。再利用を促進するため分別を徹底するよう取り組む。

「一般廃棄物排出量の削減について」

排出削減への取組や意識は少しずつ社内に浸透している。排出量の管理、分別、再利用促進に努めていく。

「排水量の削減について」

散水は雨水を利用する取り組みを行っているが、仕事量の増加により貯水が不足した場合には水道水を使用する場面も多かった。

環境関連法規制等の遵守状況の確認及び評価の結果並びに、違反訴訟等の有無

当社の環境関連法規制等一覧表及びそれらの遵守状況を確認した結果として、違反はありませんでした。また、環境関連法規制に関する関係当局からの違反等の指摘は過去3年間ありませんでした。

主な環境関連法規の遵守状況

法規名	主な遵守事項	遵守結果
大気汚染防止法	ばい煙排出基準	遵守
廃棄物処理法	保管基準、収集運搬基準、処分基準	遵守
労働安全衛生法	各種作業に必要な資格、教育等	遵守
消防法	危険物貯蔵所、管理者等の届出	遵守
フロン排出抑制法	エアコンの簡易点検	遵守

代表者による全体の評価と見直し・指示

(見直し)

前年度の見直しにより、目標と実績に乖離がある項目、特に軽油、ローサルの使用量については目標の再設定を行いました。また、年1%ずつの削減としてきた目標については、これ以上の新たな取組みも実情として困難なため、緩やかな削減目標としました。

なお、全般的には取組の効果も見受けられ、社内の意識も高まってきていると感じています。

アスファルト製造業界においてもCo2削減の議論や推進活動が行われるようになり、さまざまな技術提案やヒントを共有しつつ取り組んでいます。当社においても社員の意識改革、知識の付与、設備導入などを実践し、社会的責任を果たさなければなりません。

全役員従業員には、安全第一、法令順守、環境負荷低減に向けた新技術の開発、再資源化の促進に一層努力していくよう期待します。

(指示)

今後も管理部門においては評価が適切に行え、具体的な対策を提案検証できると、作業現場部門では評価を基にした効果的な取組みが実践できるよう期待します。

以上